平成29年度　佐世保市立金比良小学校
学　校　経　営　計　画

（校訓）やさしく　かしこく　たくましく

学　校　教　育　目　標

心豊かで，確かな学力を身につけた，心身ともにたくましい子ども

学校経営の基本方針

○日本国憲法，教育基本法などの教育法令，長崎県，佐世保市教育方針に則り，児童や地域の実態に即して，児童の健全な育成を期する。
○学校教育目標の具現化に向け，児童が主役となって生き生きと学び活動する学校教育の充実を図る。
○児童の心の居場所となる支持的雰囲気の温かく意欲的な学校づくりに努め，豊かで活力のある人間関係づくりを進める。
○教師一人一人が常に自己研鑽と自己変革に努め，子どもと寄り添い，人間性豊かな感性と指導力を高める教師集団を創造する。

めざす学校の姿

①明るく楽しい学校
②落ち着きと礼儀のある学校
③美しく安全な学校
④保護者や地域と共に励み合い信頼される学校

めざす児童の姿

�わ：和を大切にする子
�か：かしこい子
㋬：しんぼう強くがんばる子
�お：思いやりのある子

めざす教師の姿

①心身共に健康で，使命感を自覚し信頼される教師
②自己研鑽に努め，子どもと共にあり，実践する教師
③組織の一員として，協調性と創造性を発揮し楽しい職場作りに努める教師

和を大切にする子（徳） 思いやりのある子	かしこい子（知）	しんぼう強くがんばる子（体）
* あいさつ・言葉遣い・善悪の判断等，基本的生活習慣を身につけ，けじめのある生活ができる。 * 他人の立場を認め，誰とでも仲よく協力できる。 * 優しい心で動植物に接し自他の生命を大切にすることができる。 ＊自分を支え，助けてくれる人々へ，感謝の気持ちを表すことができる。 ＊あいさつ・ボランティア活動等を通して，自分の力で学校や地域の生活をより良くしていこうとする意識を高める。	* 反復により基礎・基本をしっかり身につけ，活用することができる。 ＊人の話をきちんと聞くことができる。 * 書く・話す等の表現力を身につけ，自分の思いをしっかりと伝えることができる。 * 学び方がわかり，自ら進んで学習できる。	* 早寝・早起き・朝ご飯等基本的生活習慣・衛生的な習慣を身につけ，健康で安全な生活を送ることができる。 * 体力づくりに励み，全力で頑張ることができる。 * がまん強く最後までやり遂げることができる。

信頼される学校づくり

＊　地域人材や関係団体の活用
＊　教育活動の積極的公開
＊　積極的な情報公開
＊　地域行事への積極的参加
＊　事件，事故への誠意ある迅速な対応

今年度の重点目標

1　基礎学力の向上

〇読む・聞く・書く・話す活動にけじめをつけ、思考力･判断力･表現力等を育成する。
※学びのコミュニケーションスキル（金比良スタンダード）の徹底習得
〇各種学力調査で明らかになった課題を重点的に補強する。
※少人数指導の充実を図る。特に、中･低位の児童の底上げを図る。
〇「地域未来塾」事業（社会教育課）とリンクした学力向上を試みる。

2　生活規律の徹底

〇「早寝・早起き・朝ご飯」等基本的生活習慣の定着を図り、生活のルーティンをつくらせる。
※テレビ視聴、ゲーム機利用時間、インターネット等メディアの使用ルールなどの指導。
→　遅刻ゼロ、不登校ゼロ、長欠ゼロ、全校欠席ゼロの日４０日以上
〇生活改善を要する家庭は、ＳＳＷや福祉関係機関との連携を緊密に取り、生活規律の形成を図る。

3　小中一貫型小学校のスタート

〇制度スタート元年にあたり、全校あげて全力で取り組む。
〇地域とともにある学校づくりの中で本制度のよさを生み出す。
〇６年生が中学校で学ぶメリットを最大限生かした小中一貫校のあり方を追究する。
※小中９年間でそろえ、つなぐところ　小学校の独自性を出すところ
※校内研修や学校行事での連携・交流、児童会（生徒会）活動等の合同開催など
〇本制度の広報周知を図る（ＨＰ、各種総会、懇談会、報道）

4　英語教育の充実（英語が話せるまち佐世保プロジェクト）

〇これまでの研究をもとに、金比良スタイルの英語教育･外国語活動を引き続き研究していく。
〇中学校英語教師の乗り入れ授業や英語が堪能な職員と担任とのＴ.Ｔ指導などを通して、学習内容の充実を図る。
〇授業やイングリッシュタイムの学習で身につけたコミュニケーションの能力を生かす場づくりを行う。（アメリカンスクール、イングリッシュデー）
〇大学・行政・民間等との連携による「英語が話せるまち佐世保」の具体的実践を行う。

5　信頼ある教師集団による信頼ある教育

〇厳しさと優しさのバランスのとれた指導
〇事案発生後の迅速な対応

全体的に多すぎ
総花的
フレーズが長い

H29 学校経営の努力点

1　確かな学力の定着のために【かしこい子】　＊教師は授業で勝負する。

○　自分の夢や希望を持たせ，高い目標をたて，くじけないで努力する場の設定。
※自己肯定感，有用感の育成のためにも。　→　中学校のキャリア教育へ

○　学習規律の確立（はじめの３か月は厳しく徹底）→　話す，聞く，時間を守る等。

金比良スタンダードを作り，中学校へつなぐ。

※　専科と学級担任との連携を緊密にし，指導の差をなくす。

○　１単位４５分間の授業時間の確保。

○　めあての明確化，まとめ（ふりかえり）の設定。

○　個に応じた指導（少人数指導・習熟度別指導・個別指導等）の一層の推進

〈　学力テストの結果から　〉

＊経年の実績

国語は低学年があと一歩だが，高学年に向上が見られる。
算数は，３，６年が向上。他学年は，横ばいか少し下降。

＊課題にこだわった具体的な手立て，中・低位児童への個に応じた具体的な手立て(補充学習・家庭学習等)を講じる必要がある。

○　言語活動の充実により，思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

◇考えをノートに書いてから発表する。
◇全体・ペア・グループ等で，説明し合う，意見交換をし合う活動
◇友達の意見を代わりに説明したり，補足して説明する活動
◇複数のグラフや表を比較して，気付いたことを述べ合う活動
◇言葉だけでなく，図や数直線，線分図等をかいて説明する活動　等

○特別支援教育の充実　→　理解が遅い児童等への対応。

○　漢字の読み書き，計算力の向上・定着をめざし，繰り返し問題に取り組ませる。
（授業，放課後，家庭学習等，鍛える場を設定し，継続して取り組む。）

○　家庭と連携して，家庭学習の習慣を図る。→「家庭学習のすすめ」の活用
※家庭学習のめやす時間　１５分×学年＋読書（１０分）

○　読書の充実を図る。多読のすすめ。→　全校読書冊数　目標１０，０００冊

○　ICT（実物投影機・大型プロジェクター等）の良さを活用した授業。

○　学習指導計画書（週案）の確実な記入と，定期的な提出
（記録は証拠になり，自己を救う。）

2　豊かな心を育てるために【 和を大切にする子・思いやりのある子】

○　相手を思いやる心を育てるための，「いつでも」「どこでも」「誰とでも」あいさつの徹底。
そして，**呼ばれたら元気に「ハイ！」と返事させる**。そして，くつ（スリッパ）ならべ。

※「あいさつ・返事・くつならべ」本校の一徳運動。

今年度は，「名前を呼ばれたときの返事や返答」と「くつ(スリッパ)並べ」に力を入れる。
（職員も率先して児童に声をかける。元気で明るいあいさつを地域にも広げていけるよう，日頃から児童にも啓発したい。）

○　図書ボランティアや見守り隊の方々，地域の方々等，子どもたちを見守ってくださる方々への感謝の気持ちの表すことの指導。

○　学校や地域をより良くするため，進んであいさつやゴミ拾い、落ち葉掃き等のミニボランティア活動を奨励する。

○　掃除指導の徹底。特に**無言掃除**に力を入れる。

※縦割り掃除ではできるが，学級掃除では不十分。

○　道徳教育の充実(週１時間の「道徳」の確保，心に響く授業，豊かな体験活動)
教科化に向けての新しい流れに着目をする。

○　自分や友達の命，動物や草花を大切にする心を育てる具体的な場の設定。

○　相手を思いやる優しい言葉遣いの指導　→「ほかほか言葉」と「ちくちく言葉」

○　**いじめをしない，させない，見逃さない児童の育成。(なかよし宣言の意識化と活用)**

○　学校のきまり，社会のルール（児童センターや公園等公的機関での過ごし方）を明確に示し，継続的に指導する。

○　たてわり活動の充実(２学年遊び，たてわり掃除，特別活動等)

○　当番，係，掃除の仕事では，一人一人に係を持たせ，学級・学年・学校をよくする意識を持たせる。

3　健康の維持・体力の向上をめざして【　しんぼう強くがんばる子　】

○　積極的に運動させる機会の設定。体育授業では，一人一人の運動量を十分に確保する場の工夫をする。

○　日常的な体力づくり　→　朝のマラソンやなわとび，昼休みの外遊びの奨励等

○　早寝・早起き・朝ご飯等，生活リズムの確立　→　遅刻ゼロ，長欠児童ゼロ
※　全校欠席ゼロの日　４０日以上

○　テレビ視聴，ゲーム，携帯電話，パソコン等のメディア利用と自分の生活への影響，節度ある活用のあり方等を振り返らせる場の設定。保護者への啓発。

※　特に，テレビ視聴時間とゲーム機を使ったネット利用が本校の課題。

○　「自分の身体は自分で守る」意識を持たせ，実践をさせる。

○　**食物アレルギー児童への誤食をゼロにする。**

◇改訂マニュアルの十分な共通理解。アレルギー対応児童の正確な把握と共有。

◇誤食防止の二重三重のチェック。職員室での掲示，給食時の巡視，学級での声かけ等

◇誤食発生時の対応マニュアル共有と訓練の実施

○　う歯治療率の向上，歯肉炎の児童を減らす指導。（フッ化物洗口の定着化）

○　給食指導をとおして，正しい食習慣や偏食指導等具体的な指導を行う。また，保護者への積極的な啓発を行う。

4　地域とともにある学校づくりの推進　【　信頼される学校づくりのために　】

○　積極的な情報発信(学校だより、学年だより，ホームページ，各種会合等)
○　地域行事への積極的参加・協力
○　地域未来塾との連携
○　学校支援会議・学校評議員会をとおした学校課題の解決
○　地域人材・関係団体との連携・融合(公民館講座，稲作体験，読み語り，福祉関係　等　)

5　保幼小中連携の推進　【　つなぐ・そろえる　】

○　小中一貫型小学校・中学校
　◇　小中一貫推進コーディネーターを中心に確実に行う。
　◇　小中別・合同研修会の適宜開催
　◇　小中一貫推進協議会だよりを発行し，保護者・地域住民への周知・啓発を図る。
　◇　小中合同校内研修の実施，研究授業と別に中学校の授業を参観する機会を設ける。
　◇　中学校教師の乗り入れ授業
　◇　学校行事や児童会・生徒会活動等での児童・生徒の交流　　等

○　「小１プロブレム」解消に向け，保幼小連携を積極的に進める。

6　危機管理の強化　【　安心・安全・楽しい学校の確立　】

○　学級担任の危機管理・・・アレルギー対応等生命と身体の安全，人権，いじめ・トラブル，個人情報，学力，保護者対応等さまざま。日頃から危機意識を持っておく。

○　配慮を要する家庭との連絡・連携をこまめに行う。

※本校には，非行事例がほとんどないが，学校教育に非協力的な保護者，子どもの躾に関心が低く養育態度に問題がある家庭がある。それらの家庭とのこまめな連絡・連携が必要である。

○　学校内外での危険を除去し，安全性を高める。休み時間の過ごし方を観察する。
(毎月の安全点検，修繕，危険な遊び，交通安全指導)

○　避難訓練を通して，火事・地震・津波・不審者等発生時の避難の仕方を学ばせ，危険を回避する意識を持たせる。(自分の身は自分で守る意識)

○　**危機発生への報・連・相の徹底。初動を素早くし，大事は中事に，中事は小事になるように。**
※　特に生徒指導上の問題，けがの連絡には細心の注意をはらう。

保護者への連絡は，必ず子どもが帰宅する前にしておくこと。(正しい情報を知らせる。)

保護者対応の基本は，直接会話・家庭訪問

１に直接対話，２に電話，３に連絡帳・手紙

※子ども・保護者にとって良くない情報を連絡帳に書くと，言葉が一人歩きをしてかえってこじれる場合があるので注意を要する。

対応の「さしすせそ」

最悪を想定し、慎重に、素早く、誠意をもって、組織で対応する

〇さ　最初の一言　　**〇し**　慎重な応答

〇す　推測の危険　　**〇せ**　誠意ある態度

〇そ　組織一丸の姿勢

今年のキーワード「つなぐ」「そろえる」「ひろげる」,そして「きたえる」